

## 9月会議で3つの質問をしました

### 答

⇒前ページより続く

2. 地域住民や事業所、行政機関等が協力し高齢者が安心して暮らし続けられるよう、地域全体で高齢者を支え合う仕組みづくりの構築を目指して、賛同頂いた44事業所等を「軽井沢みまもりネットワーク登録事業所」として令和4年度より登録。年2回研修会や連絡会議を開催。
3. 世界アルツハイマー月間である9月、毎年、認知症や高齢者をテーマにした映画上映会を開催。今年度は、認知症の正しい理解や地域とのつながり、人生会議が重要であることを自分事として考えるきっかけづくりの為、2つの映画を上映。
4. 医療機関を受診または介護サービスを利用する際に、本人の状態や家族からの情報を記載し、関係機関に持参し、提示することで情報共有ができ、円滑な治療や介護サービスを受けられるためのツールとして、認知症地域連携パス「つな軽オレンジ手帳」を7月に作成。今後、活用いただけるよう、啓発を行っていく。
5. 認知症施策として毎月開催している認知症本人、そのご家族、介護や福祉の専門職やボランティアが気軽に集えるオレンジカフェの開催や認知症に対する正しい知識と理解を持ち、認知症の人と家族への地域の応援者である認知症サポーター養成講座を町民や民生委員児童委員、新規役場採用職員等を対象に実施、現在サポーターは2,206名。  
又昨年度は認知症サポーター養成講座の講師役を担うキャラバン・メイト養成研修を10年ぶりに開催。新たに14名がキャラバン・メイトとして登録できた。

### 問

以前質問した、お子さんのキッズサポーターはどうか？

### 答

キッズサポーター養成講座ということで、令和5年度より中学校3年生を対象に、認知症サポーター養成講座を開催している。

### 問

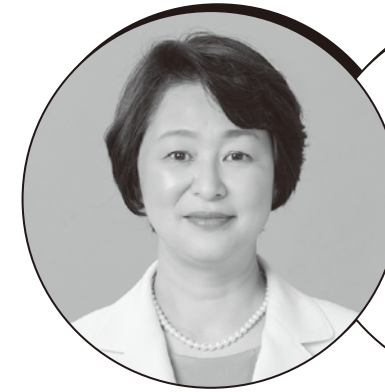
ユマニチュードの普及活動を、住民講座として取り組めないか？

### 答

当町では、まずは認知症サポーター数を増やすこと。又そのサポーターが地域で活躍できるよう、学んだ知識や理解をさらに深める為の認知症サポーターステップアップ研修の開催を進めていきたいと考えている。  
しかしながら、認知症当事者と介護者が平等の立場で、自由と自立が尊重され、認知症患者と円滑にコミュニケーションを取るための4つの技法であるユマニチュードを学ぶことは、当事者やその家族と接する上で在宅介護等に有効的に生かせることから、今後、住民講座等に取り入れてまいりたいと考えている。



©KOMEITO



No.40 2024年 秋号

# さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135

## 9月会議で3つの質問をしました

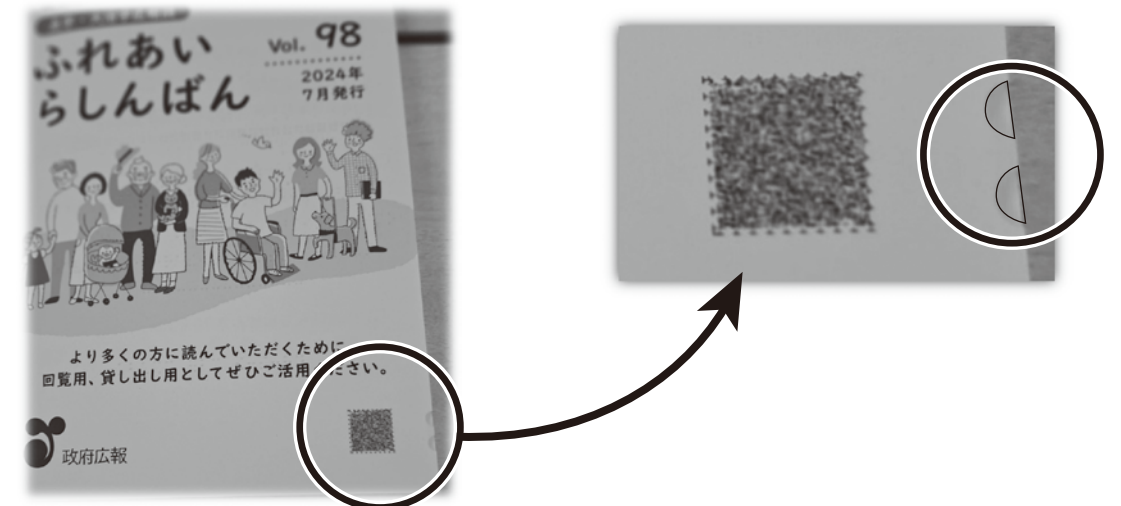
### 1 「視覚障がい者の方への情報取得」を質問!!

視覚障がいや弱視のある方、小さな文字が読めない高齢者の方にとって情報入手は音声頼りです。点字や補助者による代読や文字コード情報に変換して読み上げる装置やアプリはありますが、個人情報記載された書類等聞かれたくない情報もあります。

このような方たちを支援するために、スマホで二次元コードを読み取ることで、印刷物やウェブサイト文字情報を読み上げる音声コード「Uni-Voice (ユニボイス)」があります。

ユニボイスアプリは無料、音声コードの位置は、印刷物の切り欠きが目印で、すぐ横に音声コードが印刷されており、スマホで音声コードを画面に映すと自動的に撮影され内容を読み上げます。

漢字を含め800文字が記録、点字ディスプレイでの点字出力も可能です。



### 問

視覚障がい者宛ての文書等、情報取得にユニボイスの活用を。

### 答

NPO法人日本視覚障がい情報普及支援協会が行う自治体向けの音声コード導入研修会を利用し、まず職員が仕組みや特徴を理解し、先進自治体の活用事例を参考に、活用方法の研究から始めたいと考えている。

## 2 「教科書バリアフリー法改正に伴う町の施策」を質問!!

本年7月19日、教科書バリアフリー法の一部改正案が施行。

近年、外国人児童・生徒等増加していますが、障がいのある児童・生徒のために作成された音声教材が、日本語に通じない児童・生徒にも有用であることがわかり、この法改正により、これらの児童生徒に音声教材での学習が可能となったことで、十分な教育が受けられるようになりました。



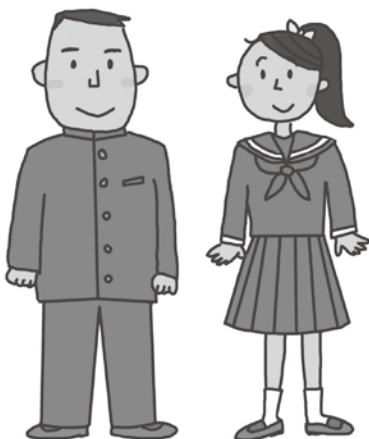
©KOMEITO

問

文科省HPで拡大教科書やデージー教科書の他、複数の大学等音声教材を提供しているが活用は?

答

既に各学校では、様々な配慮や教材等を準備している。現在、拡大教科書を利用している児童生徒いないが、過去には本人と保護者の申出により、拡大教科書を利用していた。合理的配慮として、学習プリントや定期テスト等でも拡大したものを利用し、高校受験の際にも拡大したものをを用いて受験できるようにした経過がある。デージー教科書を含め、その他の音声教材や拡大教科書等を障がいの度合いや日本語指導の困難さを考慮しつつ、本人の希望、保護者の意見等を踏まえ、しっかり協議した中で最良の選択ができるよう対応をして参りたいと考えている。



©KOMEITO

## 3 「認知症施策として、ユマニチュードの普及」を質問!!

フランス発祥であり、フランスの体育学の専門家、イブ・ジネストさんという方とロゼット・マルスコッティさんという方が40年間に渡り病院や施設や家庭で一生懸命研究をされ、その経験から生まれた。認知症の方に寄り添うケアの技術のことで、介護者の負担軽減などに効果があります。「ケアする人もされる人も笑顔」でとの思いから質問しました。

「あなたのことを大切に思っていますと伝えるための4つの柱」

四つの基本技術	<b>見る</b> 相手がのけぞらない距離まで、思い切って近づき、同じ目線の高さで正面から見つめる		<b>話す</b> 低めのトーンで穏やかに、ゆっくりと抑揚をつけ、前向きな言葉で話す	
	<b>触れる</b> つかまず、下から支えて、触れている面積をできるだけ広くする		<b>立つ</b> 1日に合計20分間、立つことができれば寝たきりの予防になる	

公明新聞より

※日本ユマニチュード学会の資料を基に作成

問

当町における介護予防や認知症施策の内容は?

答

主に特色ある5つの介護予防や認知症施策

1,今年度から地域包括支援センター総合相談事業として、住民が気軽に立ち寄り相談できる場、喫茶「よろずや」を7月に開催、初回にもかかわらず18名の方が参加。  
介護保険の申請活用、認知症の家族の相談等、保健師等専門職が対応。  
今後も定期的な開催の要望があったので実施をしていく。

次のページに続く⇒